

# Do-Re

北海道立図書館レファレンス通信

No.30 (通巻34号)

平成19年12月14日発行

## 【目次】

- こんなのきました —参考調査課によせられたレファレンス— 【30】 .....1  
「はだしのゲン」の「第二部」はありますか？
- こんなのあります —いちおしレファレンス・ブッカー— 【21】 .....2  
「新聞小説」を探すツール
- 市町村のみなさんからの発信 【19】 .....3  
熱意と根気と職人技 伊達市立図書館 阿部 由美子さん
- Librarian's Box (しよぼこ) 【18】 .....4  
国立国会図書館デジタルアーカイブポータル「PORTA」の公開
- 課員のつぶやき —日々の業務からの短信— 【19】 .....5  
パーキー・ミスプロナウンサー [perky mispronouncer]
- こんなことしました 【4】 .....6  
テーマ別リーフレット (バスマフィンダーのようなもの) による情報発信 音更町図書館 加藤 正之さん
- レファレンスサービスに関する雑誌記事紹介 (2007年6月~10月分) .....7
- News .....8
  - 1 第49回 (平成19年度) 北海道図書館大会開催
  - 2 道民カレッジ連携講座「インターネット活用術」開催
  - 3 平成19年度全道図書館研究集会開催
  - 4 わかりやすい健康に関する情報講座60名参加!
  - 5 平成19年度図書館とNIIの集い~NII Library Forum2007~に参加
  - 6 国立国会図書館デジタルアーカイブポータル「PORTA」公開
  - 7 遠隔研修「資料保存の基本的な考え方」開講
  - 8 「文字・活字文化推進機構」設立
  - 9 文化の日、書庫ツアー開催
  - 10 北広島市図書館「行政施策を支える図書館サービス研修会」開催
  - 11 函館市中央図書館建築賞を受賞!
  - 12 調べものに役立つ『関西館で調べよう』を掲載
  - 13 DVD-ROM付き冊子『青空文庫 全』を図書館に寄贈
  - 14 都道府県立図書館のインターネット設備とIT関連講座の現状
  - 15 高文連後志支部図書部・局交流会開催
  - 16 道民カレッジ連携講座開催
  - 17 レファレンス体験研修を小田光宏先生視察
- 編集後記 .....10



北海道立図書館

HOKKAIDO PREFECTURAL LIBRARY

## こんなのきました —参考調査課によせられたレファレンス— 【30】

「はだしのゲン」の「第二部」はありますか？

原爆漫画の代表作である中沢啓治著「はだしのゲン」は、1973年に『週刊少年ジャンプ』（集英社）で連載を開始し、その後、中断や掲載誌変更を繰り返し1987年まで14年かけて発表され、海外にもその名前は知れ渡っています。

現在まで数社によって何種類もの単行本が出版されていて、当館では汐文社が1988年から刊行している愛蔵版全10巻を所蔵しています。

第10巻のラストは、成長した元が蒸気機関車で東京に旅立つシーンで終わり、最後のコマに「第一部完」と書いてあります。この上京後の話を描いた「第二部」を読みたいので続きが出版されていないかというレファレンスでした。

当館所蔵の汐文社愛蔵版全10巻及びTRC-MARC、NDL-OPAC等を調査しましたが、第二部の情報を確認することはできませんでした。

『漫画家・アニメ作家人名事典』（日外アソシエーツ編集部／編 日外アソシエーツ 1997.4）や『現代漫画博物館 1945-2005』（小学館 2006.11）等の漫画関連の参考図書も調査しましたが、「はだしのゲン」についての解説はあるものの、肝心の「第二部」に触れているものはありませんでした。

『「はだしのゲン」がいた風景』（吉村和真編著 梓出版社 2006）という論集の「資料3 「はだしのゲン」の書誌データ」によると、この全10巻の物語を6つの編名に区切ることもあるようで、汐文社版の1巻から3巻前半までの内容を「第一部」としていました。

出版社によっては別の区切りもあり、中央公論社版では、汐文社版での1～4巻までの内容を「第一部」としていて、ラストの機関車での上京シーンには「第二部完」と書いているということです。

いずれにしても、これらの区切りは広島編と東京編と分けている区切りとは別物と考えられます。

日経テレコン21（※1）で調査したところ、『朝日新聞』1996年11月21日朝刊記事「はだしのゲン 序章：上（核時代の遺産 原爆ドーム世界へ）／広島」に、「ライフワークともいえる「はだしのゲン」は、広島で育った主人公の上京で第一部が終わった。東京が舞台になる第二部へと続く。九八年八月までには、出版する見通しだ」とあり、1990年代には第二部の構想があったことがわかります。

しかしその後、第二部が描かれたという記事は見つからないため、他にインターネットで調査したところ、ウィキペディア（※2）の「はだしのゲン」の項目に、「第二部も予定されており、出版の予定も決まり下書きの段階まで進んでいたが、「ゲンのその後は読者自身が考えてほしい」との中沢自身の判断により中止になった」と説明があり、また「2000年頃より持病の糖尿病による片目の失明で漫画を書くことがほぼ不可能な状態」ともあるので、作者自身の手によって第二部が描かれる可能性は低いようです。

これらの情報から、「はだしのゲン」第二部の構想はあったものの、描かれることなく中断しているのが現状と判断しました。

ところで、続編の構想があったにも関わらず、中断されたまま終わってしまった有名な作品にドストエフスキーの「カラマーゾフの兄弟」があります。この秋には『「カラマーゾフの兄弟」続編を空想する』（亀山郁夫／著 光文社 2007）という本まで出版されていますが、洋の東西を問わず、優れた作品はたとえ未完でも長く評価され、読者にその後の展開を期待させるほどの魅力があるということのようです。

※1 新聞雑誌記事をキーワード検索できる会員制有料データベース。 <http://telecom21.nikkei.co.jp/>

※2 インターネット上でボランティアにより作成、公開されている無料の百科事典。 <http://ja.wikipedia.org/>

## こんなのあります —いちおしファレンス・ブッカー【21】

「新聞小説」を探すツール

ある日のこと、尾崎士郎が書いた「吉良の系譜」という著作について問い合わせがありました。典拠は「時代小説のヒーロー100 別冊太陽 No.83」ということです。いつものように当館の蔵書を検索し見つからず、国立国会図書館や大学図書館等の蔵書についても検索しましたが確認できません。「全集」所収の作品についても調査しましたが判明しませんでした。

今一度典拠の資料を確認すると、尾崎士郎『吉良の男』『吉良の系譜』（昭和 35）と確かに記されています。誤植(?)が頭を掠めつつインターネットも頼り調査しても判らず、結局「尾崎士郎記念館」(吉良町)へ照会し、『日本経済新聞』に掲載された作品であることを教えていただきました(単行本は未刊)。当時、今回紹介する資料にあたることができているならば、こんなにも遠回りを…。

### 1 『新聞小説史年表』(高木健夫編 国書刊行会 1987.5) 請求記号: 910.26/SH

明治8年~昭和30年までの全国紙・地方紙(91紙)に掲載された小説についてまとめられています。タイトルにあるように小説の題名・著者名・掲載紙(新聞)名・挿絵画家名が、各年・月の倉刊新聞・雑誌、事件・風俗記事とともに年表形式で記されています。タイトル・著者名の索引はありませんが、その情報量は膨大でこれに代わる資料はありません。巻末には「萬朝報」懸賞短篇小説年表もあります。ちなみに道内関係紙では、北海タイムス(→北海道新聞)、北海日日新聞(→北海タイムス)、小樽新聞、樺太日日新聞が取り上げられています。

巻頭の記述などによると、ジャーナリストである編者高木健夫氏は、先に『新聞小説史 明治篇』『同 大正篇』を出版、続く『同 昭和篇二巻』の校正中に他界され、当資料は没後、氏の遺志を継いだ門下生と柴瑳予子氏により刊行されたとあります。十年以上にもわたり、こつこつと調査・研究をすすめられた偉大な業績といえます。

### 2 『現代新聞小説事典 国文学 解釈と鑑賞 42巻15号549号』(至文堂 1977.12.5) ※雑誌

雑誌『国文学 解釈と鑑賞(1977年12月臨時増刊号)』(長谷川泉、武田勝彦編集)として出版された資料です。新聞小説に関するいくつかの論説の他、「現代新聞小説一覧表」として戦後昭和20年~52年まで(掲載紙により異なる)の朝日・毎日・読売・東京・サンケイ・日本経済・赤旗・三社連合(北海道・中部日本・西日本)各紙に掲載された作品が、新聞毎に年表形式で題名・作家・画家・掲載期間・朝夕別・回数・単行本化・出版社他でまとめられています。また後半は「現代新聞小説作品事典」として165の作品について、初出・梗概・評価の項目立てで紹介されています。

この事典によると、前述の「吉良の系譜」については、日本経済新聞の部分に昭和35年4月1日~10月14日夕刊に掲載され、単行本化はされていないことが記されています。

ある著作の照会を受け、その書誌的事項が確認できない場合、それが新聞小説で未刊の可能性があるので…と発想することは困難ですが、これを機会に頭の片隅に留めておきたいと思います。

先日、こんな問合せもありました。

「60年位前に北海道新聞夕刊に掲載された富田常雄の作品をもう一度読んでみたい。登場人物の一人に“千草”という名を記憶している」 → 答えは『浮雲日記』(東方社 1955)で単行本化

毎日読む新聞に掲載される小説は、とても身近な読み物です。その背景など興味を持たれた方は、欄外の参考資料も是非ご覧下さい。

- 参考資料 『新聞小説の誕生』(本田康雄著 平凡社 1998.11) 請求記号:910.26/HO
- 『新聞小説史 明治篇』(高木健夫著 国書刊行会 1974.12) 請求記号:910.26/TA
- 『新聞小説史 大正篇』(高木健夫著 国書刊行会 1976.12) 請求記号:910.26/TA
- 『新聞小説史 昭和篇1』(高木健夫著 国書刊行会 1981.11) 請求記号:910.26/TA/1
- 『新聞小説史 昭和篇2』(高木健夫著 国書刊行会 1981.11) 請求記号:910.26/TA/2

## 市町村のみなさんからの発信 【19】

熱意と根気と職人技

伊達市立図書館 阿部 由美子 さん

生涯学習という言葉が、特別なことをしなければいけないかのように感じていた時期があったように思えますが、何かに興味を持ち楽しんで続けることが生涯学習なのでは…。

当市では、高齢者の方々を対象に「長生大学」という集まりがあり、最終的には博士号まで習得できるようで、学生気分浸っている様子に微笑ましさを感じます。そこでは、月に一度20問ほどの試験問題が手渡され、その直後に館のカウンターは賑わいを見せます。最初の頃は答えを求めての来館だったため、本を提示しても見ているのは館員の顔（見とれているのか？イヤ、違う「早く答えろよ。」と目が言っている…）時間をかけて資料の探し方、辞書や事典の引き方などをご伝授した後は各自で用紙を埋めています。講師のなかには楽しみながら解ける問題ではなく、受講生の学習意欲を損なわせるような問いかけをする方がいらっしやいます。その時は、燃える館員も加わっての勉強会となり、今では知力の講師と腕力自慢の館員との間で、密かにバトルの様相を呈しています。

また、問い合わせがあまりにも漠然としているので、絞り込んでいくときに顔の筋肉全開で笑顔を作り質問するのですが、「もういいです。」と言われる時ほど寂しいことはないですね。（恐かったのかな？）いつも聞き出すことの難しさが課題として残ります。

道立の方々には、こちらからの要領の得ない調査依頼にも、親切に接していただき感謝しています。今のようにインターネットも接続されていない頃に、「東京タワーって鉄筋が何本使われているのだろう。そして一本一本の長さは。また、設計図って何かに載っているのだろうか。」との問い合わせがありました。忠実に縮尺で作成したいようなのです。東京タワーに関する本は多数出ているので、すぐに提示できると思ったのですが意外と載っていないのです。当館の資料では対応できず参考調査課に依頼しました。後日、設計者の内藤多伸氏が早稲田大学出身で校内に記念する研究館があり事情を話すと、「資料は寄贈されているがまとめられていないので、整理してCDに収録し道立図書館に寄贈します。」との返事を頂戴したと経過報告がありました。まもなく貸出票とともにCDが届きパソコンに映し出された図面を見たときは、ちょっと感動しました。ここで完成したタワーの模型を見ましたと報告したいのですが、依頼者は転出してしまいその後音沙汰なし。残念…。他館で目撃情報がありましたらご一報ください。また、自費出版の写真集の最後の一冊が、沖縄の書店にあるのを探し出して購入し、貸し出してくださったこともありました。これらの事例からも、レファレンスは絶対探し出すという熱意と根気、それに職人技を兼ね備えなければいけないのだと改めて学びました。

指定管理者制度の導入が見え隠れしている近年、推進派の方々を踏みとどまらせる要素のひとつにレファレンス業務＝専門性のアピールがあるのではと思います。皆様のお力をお借りしながら、業務に携わっていきますのでよろしくお願いいたします。

## **Librarian's Box (ししょぼこ) 【18】**

国立国会図書館デジタルアーカイブポータル「PORTA」の公開

平成 19 年 10 月 15 日から、国立国会図書館デジタルアーカイブポータル「PORTA」(ポルタ)が公開され、本格的なサービスの提供が始まりました。

このサービスは、利用者が必要とする情報資源へ到達することを支援するためのサービスとして、国、公共機関、民間、個人が保有するデジタルアーカイブのコンテンツそのものへ、所在機関、コンテンツの形態を問わず、ワンストップで案内可能とすることを通じ、電子的情報資源や情報提供サービスの利活用を促進することを目的としています。

国立国会図書館のデータベースを始め、国内 20 以上のデジタルアーカイブを対象に、一元的な検索を行うことができるポータルサイトとなっています。対象データベースは、NDL 蔵書目録(和図書・和雑誌)、雑誌記事検索、児童書総合目録、レファレンス協同データベース、「近代デジタルライブラリー」、「貴重書画像データベース」などの国立国会図書館のデジタルアーカイブに加え、国立公文書館、新書マップ、青空文庫等、そして岡山デジタル大百科、秋田県立図書館(デジタルライブラリー及び記事・検索)などの郷土資料もあります。約 800 万件のコンテンツが検索可能です。これらを一元的に検索して、利用可能なコンテンツやサービスへたどり着くことができます。

検索は、簡易検索、詳細検索の他、汎用連想計算エンジン(GETA)を用いた連想検索、NDC等の分類検索、辞書検索など、様々な検索ができるようになっています。

たとえば、ある事柄を調べるときに、NDL-OPAC等で検索しても、雑誌記事を探ることまで及ばなかった、またレファレンス共同データベースで事例を探ることや、Dnaviなどのデータベースを調べることまでは思いつかなかった、ということがあると思います。ポータルサイトで一元的に全てを検索することで、それぞれ個別に探す労力や調査漏れの可能性を解消することができるようになっています。

また、機能として特筆すべきは、関連情報の入手です。検索結果一覧又は詳細情報から、「関連情報リンク」をクリックすると、新たに検索用の中間窓が現れ、その資料に関する情報が得られます。中間窓は検索結果で選んだ資料を、国立国会図書館総合目録ネットワーク(ゆにかねっと)、Amazon.co.jp、Kinokuniya BookWeb、オンライン書店 ビーケーワン(bk1)、Google等で検索します。検索したいサイトと、資料の書名、著者名などの検索対象の項目を選択します。

項目の表現が若干異なることや、タイトルの項目では書名の他、著者名も一緒に入力されていますので、検索窓のキーワードを修正しなくてはならないといった注意が必要です。しかし、検索対象のアーカイブ以外からも情報を手に入れるようにでき、使いこなせば多くの情報を一度に集められます。ユーザー登録をすると、さらにパーソナライズ機能やブックマーク機能も使えるようになります。一度お試しください。

■ デジタルアーカイブ… 収藏品や資料等の画像、その他を電子情報(デジタル)化し、蓄積して保管したもの。文字、画像情報、音、動画などの各種情報が含まれたマルチメディア・データベースであり、関係機関及び一般に公開している。

■ 国立国会図書館デジタルアーカイブポータル「PORTA」 <http://porta.ndl.go.jp/portal/dt>  
(国立国会図書館のHPからもリンクされています。)

## 課員のつばやき ー日々の業務からの短信ー 【19】

パーキー・ミスプロナウンサー [perky mispronouncer]

某月某日 昔読んだと記憶する文章が気になり、恐らく紀田順一郎の本だろうと思ってあれこれひっくり返したがなかなか見つからない。そんな中で、「ふむ、こんなのもあったな」と目を留めたのが上の標題の文章だった。

パッと見て意味を思い浮かべられる人は余程の読書家（しかも英文の）ということになろうか。

出典はギッシング『ヘンリー・ライクロフトの手記』「春」の22章。紀田氏の文章では問題の部分の原文と中西信太郎による訳文が引用されているのだが、ギッシングが大衆読者の生態を描写して、「表題や著者の名前を間違って発音する連中」と言う箇所に出てくる表現だと紹介して、紀田氏が見聞した中学、高校時代のクラスメイトを初めとして「誤読」名人の数々を綴ったものだった。若干脚色を交えて紹介するとこんな具合である。

中学のとき、「武者小路実篤」を「ムシャコミチジツク」、「豊臣秀吉」は「トヨトミヒデキチ」、「東京都代々木」を「トウキョウトダイダイギ」などと読んでクラスは大爆笑、そのため授業を進まなくさせた女子生徒。

高校の時の同級生は、駅の広告の看板にある「浮気天国」を指さして「ウキキテンゴク」とやる。高校三年にもなって「浮気」の読み方も知らないとは。こんな調子だから教室で彼が指名されると、「今日はどんな珍発音が出るか」とワクワクしている。なにしろ旧国名の「武蔵」を「タケゾウ」、「佐藤春夫」が「サトウシュンプ」となる始末。紀田氏は最初冗談を言っているのかと思うのだが、そうでないことがわかったとき、「言語機能の欠陥と思うことにした。まったくの無知とはちがうのである。」と評する。

その後もパーキー・ミスプロナウンサー現象は目立ち、NHK ニュースのベテランアナが「惨劇」を「ザンゲキ」、民放では「天馬空を行く」を「テンマソラライク」、「輾転反則」は「テンテンタンソク」、「無人の野を行く」が「ムジンノライク」となったりする。

役者になると「金字塔」を「コンジトウ」、「銭湯」が「ゼニコ」、「謫居」が「テッキョ」は序の口で、「人參」を「ジンサン」と読んだ大女優がいた。視聴者参加番組で六十代の男性が「立身出世」を「タツミシュッセ」と言って、司会が言い直しする場面があった。だれからも直される機会がなかったのか。ある友人が「露伴」を「ロバン」、「清水幾太郎」を「シミズキタロウ」、「重量拳」を「ジュウリョウケン」と読み、そのたびに注意しようかと思いつながらできずにいる。会話では相手のことを考えるから、対等の関係でも注意できないことが多い。まして目上の人になるともっと難しい。

このような現象をとらえて紀田氏の分析は次のようになる。「要するに読書量の不足に伴う日常会話の内容・用語の貧弱化」がパーキー・ミスプロナウンサーの「大量発生を促している」と。

四文字熟語や故事成語の正しい読み方なんぞ、テレビのクイズ番組でしか触れることもないというのが大方の見方だろう。翻って司書の場合はどうか・・・。

上の例の中に自信のないものがあつたら、一応確かめておきましょう。

「とっておきの本の話」（紀田順一郎著 実業之日本社 1983）に収録。

## こんなことしました 【4】

「テーマ別リーフレット（パスファインダーのようなもの）による情報発信」

音更町図書館 加藤 正之 さん

パスファインダーという言葉は初めて聞いたのは、平成 17 年 2 月に更別村で開催された十勝管内公共図書館職員研修会の際でした。慶応大学教授の糸賀先生の講演だったのですが、その中でパスファインダーの簡単な説明がありました。その後、具体的なことを知るにつれパスファインダーそのものは、小中学生の調べ学習には効果的だが一般の利用者向けのものではないということが分かってきました。

ここ数年、各種の研修会に参加する中で図書館はもっと住民生活に役立つ情報を発信すべきだと考え始めていたので、パスファインダーを参考にして、テーマ別の図書館資料や地域の関連施設などを紹介した一般の利用者にも活用されるようなリーフレットを作成しようと思いました。テーマを決めるにあたっては、

- ①音更町重要施策に関連した情報（理事者に図書館が役立つと認識してもらいたい）
- ②地域住民が今必要としている情報（住民に図書館が役立つことを知ってもらいたい）
- ③役場の各部署で行っている業務を紹介できる情報（役場の仕事を住民に知らせる）
- ④町内関連施設を紹介できる情報（図書館からの情報発信によって他の施設が利用される）

以上の4点を念頭に置きました。

最初のテーマとしては、音更町長が重要施策として挙げていた「子育て支援」を取り上げ、昨年 10 月に作成しました。保健センターや生涯学習課で実施している電話相談事業や子育て支援センターなど親子の遊び場として利用されている施設を紹介したので、上記の①から④全てに該当しています。

次に、図書館の周辺で宅地開発がすすんでいいたため「家をつくるなら 住宅建築支援ガイド」を作成しました。これは上記の②に該当します。また、“役場資産税係で固定資産税の質問や相談に応じています”という一文を掲載しているので、③にも該当しています。

3 番目に「いざというときのための防災ガイド」を作成しました。誰もが、いつ必要になってもおかしくない情報なので②に該当しますが、役場防災担当から“緊急ダイヤル一覧”など住民に伝えたいことを教えていただき、③、④にも該当するようにしました。また、防災担当から町内会単位で開催する地域防災会議の席上で配布したいとの申し出があり、こちらが想定していなかったところでも活用されています。

その後、「子どもの健やかな成長のために食育ガイド」、「体づくりガイド」を作成し、半年ほどで 5 種類のリーフレットが完成しました。各リーフレットは、それぞれ紹介している関係施設に自由に持ち帰ることができるように置いてもらっています。図書館内ではカウンターで配布するだけでなく、関係資料のある書架のところにも置いて資料の付加価値を高めるようにしています。WEB 上でも蔵書検索のページで「防災」「食育」などの文字をクリックするだけで 11 種類のテーマ別資料が検索できる仕組みを作っています。\*

今後は各リーフレットの更新と、「メタボリックシンドローム対策」や「子どもの安全を守る」、「温泉に行こう！」（皆さん十勝川温泉に来てください）など新しいテーマでリーフレットを作成し、最終的には 10 種類程度まで増やす予定です。

\*音更町図書館HP <http://www.library.town.otofuke.hokkaido.jp/index.html>

TOP>蔵書検索 新着資料 テーマ別資料>蔵書検索>下方に【テーマ別資料案内】

# レファレンスサービスに関する雑誌記事紹介

(2007年6月～10月分)

※ 論題(記事名)、著者、雑誌名、出版者/編者 巻号、発行年月、掲載ページ の順に記載

(参考: 国立国会図書館NDL OPAC 雑誌記事索引)

- 1 知識をカタチに--国立国会図書館が目指す「主題情報提供サービス」(最終回) 今後の展望:「ナレッジ提供サービス」の提供に向けて 『国立国会図書館月報』 国立国会図書館 / 国立国会図書館 [編] (559) [2007.10] p. 29~28
- 2 知識をカタチに--国立国会図書館が目指す「主題情報提供サービス」(第6回)「科学技術情報設備」のページ 『国立国会図書館月報』 国立国会図書館 / 国立国会図書館 [編] (558) [2007.9] p. 39~38
- 3 レファレンスツール紹介(8) 近現代のアラブの人名を調べる 『アジア情報室通報』 国立国会図書館 / 国立国会図書館関西館アジア情報課 編 5(3) [2007.9] p. 18~19
- 4 現場からの提言 レファレンスサービス 12年間の軌跡--豊田中央図書館での経験から 安田聡 『図書館界』 日本図書館研究会 / 日本図書館研究会 [編] 59(3) (通号 336) [2007.9] p. 202~209
- 5 公共図書館で健康・医療情報を提供する--横浜中央図書館の医療情報コーナー 吉田倫子 『医学図書館』 日本医学図書館協会 54(3) [2007.9] p. 264~269
- 6 特許電子図書館(IPDL)の新機能について 特許庁総務部普及支援課特許情報企画室 『知財管理』 日本知的財産協会 / 日本知的財産協会誌広報委員会 編 57(9) (通号 681) [2007.9] p. 1529~1531
- 7 チャートで考えるレファレンスツールの活用(ステップ15) 教育(2) 大串夏身 『あうる』 図書館の学校 / 図書館の学校 編 (78) [2007.8・9] p. 48~51
- 8 知識をカタチに--国立国会図書館が目指す「主題情報提供サービス」(第5回) 電子展示会 『国立国会図書館月報』 国立国会図書館 / 国立国会図書館 [編] (557) [2007.8] p. 33~32
- 9 座談会 転換期を迎える図書館サービスの今--情報提供からビジネス支援まで(図書館が日本を救う!?) 常世田良 柳与志夫 森まゆみ他 『論座』 朝日新聞社 (通号 147) [2007.8] p. 130~149
- 10 知識をカタチに--国立国会図書館が目指す「主題情報提供サービス」(第4回) 特定主題のホームページ--〈議会官庁資料室〉と〈アジア情報室〉 『国立国会図書館月報』 国立国会図書館 / 国立国会図書館 [編] (556) [2007.7] p. 41~38
- 11 チャートで考えるレファレンスツールの活用(ステップ14) 教育(1) 大串夏身 『あうる』 図書館の学校 / 図書館の学校 編 (77) [2007.6・7] p. 48~50
- 12 国立図書館のビジネス支援機能--国立国会図書館における今後のサービス展開に向けて 小澤弘太 加藤浩 長崎理絵 『現代の図書館』 日本図書館協会 45(2) (通号 182) [2007.6] p. 106~118
- 13 レファレンスツール紹介(7) 中国雑誌の調べ方 『アジア情報室通報』 国立国会図書館 / 国立国会図書館関西館アジア情報課 編 5(2) [2007.6] p. 18~19
- 14 デジタル岡山大百科--電子図書館ネットワーク 森山光良 『情報管理』 科学技術振興機構研究基盤情報部 50(3) [2007.6] p. 123~134



- 15 知識をカタチに—国立国会図書館が目指す「主題情報提供サービス」(第3回) 主題書誌に関するデータベース—「テーマ」から資料を探せる蔵書目録 『国立国会図書館月報』 国立国会図書館 / 国立国会図書館 [編] (555) [2007.6] p.31~29
- 16 国立国会図書館インターネット情報アーカイブ事業「WARP」のご紹介 西中山隆 『オンライン検索』 日本端末研究会 / 日本端末研究会 編 28(2) [2007.6] p.62~74

## NEWS

### 1 第49回(平成19年度)北海道図書館大会開催(9/4・5)

ホテルライフオーソ札幌で開かれた今大会のテーマは「社会をうるおす図書館—その役割と図書館連携を考える」。講師には、青山学院大学教授小田光宏氏をはじめ、館種の異なる道内の図書館からパネリストらを迎えて、図書館が社会全体に果たしてきた役割と今後期待される役割について協議をしました。

### 2 道民カレッジ連携講座「インターネット活用術」開催(9/21)

インターネットの情報を効果的に収集し、役立ててもらおうと検索エンジンの使い方を解説する当講座は昨年より3回目。毎回早くから申し込みがあり、講座も好評のうちに終わりました。

### 3 平成19年度全道図書館研究集会開催(10/11・12)

テーマは、「利用者の要求に応える—収集と相互貸借」。札幌市中央図書館や道立図書館における資料の購入・提供方法や相互貸借に関するアンケート実施報告をもとに、図書館の協力体制や問題点について研究討議を行いました。

### 4 わかりやすい健康に関する情報講座60名参加!(10/17)

北海道医療大学図書館との共催講座第1弾として、札幌サテライトキャンパスにて、道民カレッジ連携講座を開催しました。薬についての講演や当課宮本が講師を務める医療・健康情報を図書館で得るための活用などの内容で、予想を超える多くの方に参加いただき、大盛況のうちに終わりました。常用薬の質問も絶えず、より多くの医療情報の提供の必要性が感じられました。

### 5 平成19年度図書館とNIIの集い~NII Library Forum2007~に参加(10/12)

当課今野が、NII(国立情報学研究所)主催の「目録所在情報サービスの現状と今後」についてのフォーラムに参加しました。Googleと連携したことにより一般Webユーザから膨大なアクセスがあったお話しやCINii(学会誌論文紀要論文の検索システム)と本文(現物)とOPAC(自館蔵書検索システム)の図書館システムとの連携例(大学)などの取り組みについて報告がありました。

### 6 国立国会図書館デジタルアーカイブポータル「PORTA」公開(10/15)

広く国のデジタル情報全体へのナビゲーションができる総合的なポータルサイトとして、国立国会図書館のデジタルアーカイブに加え、国や公共の機関、民間に関わらず、複数のデジタルアーカイブについて検索ができます。連想検索やアクセスランキングなどの項目もあります。

PORTA <http://porta.ndl.go.jp/portal/dt>

### 7 遠隔研修「資料保存の基本的な考え方」開講

国立国会図書館では、各種図書館職員の方を対象に、インターネットを通じて自学自習型の研修を提供する遠隔研修を行っています。11月から来年1月まで今年度の受講者を募集しています。国立国会図書館遠隔研修ポータルサイト <https://tlms-p.ndl.go.jp/library/html/portal.html>

### 8 「文字・活字文化推進機構」設立(10/24)

2005年に施行された文字・活字文化振興法に始まり、2001年の読書活動推進法施行と合わせた施策を展開するため、日本新聞協会、全国出版協会が財界、労働界などととも、同機構が発

足しました。24日、設立記念総会が開かれ、2010年を「国民読書年」とするアピールを採択しています。

## 9 文化の日、書庫ツアー開催 (11/3)

今回も家族連れなど18名に参加いただき、資料の請求記号の大切さがわかったことなど多くの感想をいただきました。

## 10 北広島市図書館「行政施策を支える図書館サービス研修会」開催

当課西岡が9月16・17日に開催された研修会を受講しました。ワークショップ「行政支援サービスのアピール戦略」など、これからの図書館に必要なスキルを身につける機会となりました。報告書については、北広島市図書館HPに掲載されています。

<http://www.lib.city.kitahiroshima.hokkaido.jp/>

## 11 函館市中央図書館建築賞を受賞！

日本図書館協会の第23回建築賞に函館市中央図書館が選ばれ、授賞式は10月29日の全国図書館大会で行われました。受賞の理由として、構想の段階から市民の意見を積極的に取り入れていること、開架27万冊の資料・スペースの配置の明快さ、館内のすべてのスペースの位置関係が把握できる空間構成の見事さがあげられました。

## 12 調べものに役立つ『関西館で調べよう』を掲載

国立国会図書館関西館では、調べものに役立つ情報をコンパクトにまとめたチラシを今年度はじめからホームページに掲載しています。

<http://www.ndl.go.jp/jp/service/kansai/guide/pathfinder.html>

## 13 DVD-ROM付き冊子『青空文庫 全』を図書館に寄贈

民間の電子図書館「青空文庫」は、日本図書館協会協賛事業として、10月27日から約3000の公共図書館、大学、短大、高専附属図書館、約5000の高校図書館に寄贈しています。DVD-ROMには、青空文庫収録作品のうち、著作権の切れた作家と翻訳家407名の約6500点がおさめられています。

## 14 都道府県立図書館のインターネット設備とIT関連講座の現状

国立教育政策研究所は2006年度の調査研究事業として、都道府県立図書館を含む社会教育施設を対象にITの活用状況などについて実態調査を行い、その結果を『インターネットを活用した研究セミナー等に関する調査研究報告書』としてまとめ、ウェブサイト上で公表しています。

<http://www.nier.go.jp/jissen/chosa/18internet/internet.pdf>

## 15 高文連後志支部図書部・局交流会開催(11/15)

京極町湧学館で行われた交流会で当課宮本が午後の実習「ネットの達人～Do-Linksで調べてみよう！～」の講師を務めました。生徒は控えめな印象でしたがその後のアンケートでは、サイトの利便さ、Do-Linksの使いやすさなどの反応があり、貴重な機会となったようです。

## 16 道民カレッジ連携講座開催 (11/16)

7回目となる本講座は、「数字で探る私たちの暮らし」と題し、普段手にとりにくい統計資料の中で生活に密着した資料の一部『家計調査年報』『小売物価統計調査年報』を中心に調べ方を解説しました。

## 17 レファレンス体験研修を小田光宏先生視察 (11/22)

マンツーマン形式で受講者の希望に合わせて当課で行っている通称レファ研。今回は、北広島市図書館より参加があり、6コマの内容を積極的に学ばれました。小田光宏氏(青山学院大学教授)も視察に訪れ、アドバイスもいただきました。

## 編集後記

- ◆ 最近、雲をつかむようなレファレンスが多く、大きさや本の色などを気にするようになりました。当館へ照会の際もどんな小さなことでも聞き出していただけると嬉しいです。レファレンスインタビュー技術の見せどころかもしれません。(N)
  
- ◇ ここ最近、「レファ協ほめまくり」というレファレンス協同データベースの事例を取り上げ、ほめまくるブログをよくチェックしています。PORTA もそうですが、国立国会図書館のインターネットでの情報発信は素晴らしいものがあります。足を向けて寝られないです。(や)
  
- ◆ 「こんなのきました」で取り上げた「はだしのゲン」は、今年5月にウィーンで開催された核拡散防止条約運用検討会議で、日本政府代表団が加盟国に英訳版を配付し、現在外務省が進める「漫画外交」の一つとしてニュースにもなりました。(T)
  
- ◇ いま実践していることにプラス $\alpha$ を。新しいことをはじめるための種は、身近に、あるいは自らの中にもある、ということが今年一年、市町村の皆さんの活動を知ることを通して得たことでした。自分の中の種を探すには…。(U)
  
- ◆ 前号掲載の帯広市図書館長の講演にもありましたが、「趣味的な図書館から役立つ図書館へ」が今の図書館のキーワードです。予算的にきびしいのはどこの図書館も同じです。その中で住民にとって必要な施設として生き残るには…。外に向けてアピール（情報発信）、自らの資質向上に努める必要があります。市町村図書館にとっての当館の役割とは…も、今一度噛み締め前進します。Newsで紹介した小田教授のレファ研参観レポートは、次号に掲載する予定です。お楽しみに。(宮)
  
- ◇ 年も押し迫り何かと気ぜわしい時節となりました。当地では例年になく雪が少なく、先が思いやられるところです。今年も市町村の皆様から多大なご協力をいただき、当誌を発行することが出来ました。お礼を申し上げます。来年もどうぞよろしく。(S)



### **Do-Re(どうれ)の由縁**

“どうりつとしょかんレファレンス”の  
略から名付けました。  
しかしながら  
“どれどれレファレンス”からの説もあります。

---

THE REFERENCE NEWSLETTER OF HOKKAIDO PREFECTURAL LIBRARY

## **Do-Re**

**北海道立図書館レファレンス通信 No.30(通巻34号)**

発行年月日 平成19年12月14日  
編集 北海道立図書館参考調査課  
発行 北海道立図書館  
〒069-0834 北海道江別市文京台東町41番地  
TEL 011-386-8521 FAX 011-386-6906  
<http://www.library.pref.hokkaido.jp>

---